



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

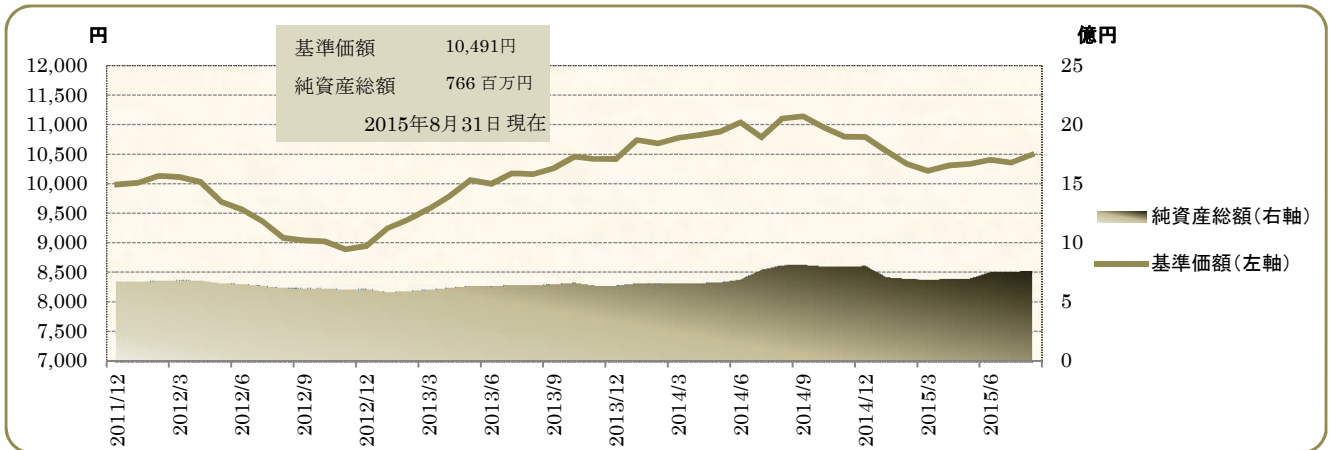
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2015年8月31日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

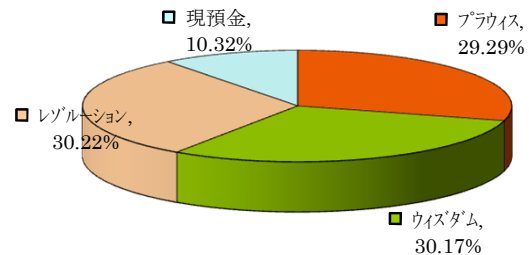
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%					-2.80%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%	-2.27%	2.94%	0.34%	-1.73%	-1.44%	-0.02%	3.54%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2015年8月31日	
基準価額:	10,491円	対前月比 136円
純資産総額:	766百万円	対前月比 +11.9百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	1.49%
基準価額騰落率	6ヶ月	1.48%
設定来	ファンド	4.91%
基準価額騰落率	TOPIX	112.43%
	日経平均	124.84%

投資対象ファンドへの資産配分 (2015年8月31日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%					0.16%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%					1.64%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%					-1.23%
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月*	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%	-0.16%	-0.32%	1.01%	-0.04%	-0.24%	-1.41%	5.22%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%	-0.30%	1.17%	0.46%	-0.04%	0.03%	0.33%	5.38%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%	-2.53%	5.02%	1.61%	-3.52%	-0.75%	2.09%	16.76%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1(以下「HFS」という)にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

8月の株式相場は、日経平均で8.23%下落の18,890.48円、TOPIXで7.38%下落の1,537.05ptとなりました。中国の株式市場が急落したことなどから、中国の経済成長に対する懸念が台頭しリスクオフの展開となり、日本株は2か月ぶりの大幅な下落となりました。

上旬は市場予想を上回る4~6月期決算を受けて上昇しました。10日にはTOPIXが9日続伸を記録するなど、緩やかな上昇傾向となりました。

中旬はやや弱い展開となりました。11日から中国人民銀行が人民元の基準値を引き下げると中国の景気減速懸念が意識されはじめ、中国関連銘柄を中心に徐々に下落傾向となりました。

下旬は値動きの荒い展開となりました。中国の景気減速懸念から世界景気の先行き懸念が台頭し、グローバルでリスクオフの展開となり世界中の株式や商品が大きく売られました。日本株も下げがきつくと、日経平均は24日に19,000円を割り、さらに25日には18,000円を割る大幅下落となりました。しかし中国が25日に追加金融緩和を発表したことから過度な不安心理が後退し、25日から

28日にかけて急速に買い戻され28日には19,000円台を回復しましたが、下げを埋めることができずに取引を終えました。

東証一部の売買代金は、12か月連続で2兆円を上回りました。特に値動きが激しかった後半は売買が多く、25日には約4.9兆円と9か月ぶりの水準となりました。

需給面では、海外投資家が3か月連続で売り越し主体となりました。一方で個人投資家と信託銀行が3か月連続で買い越しとなりました。

セクター別騰落率では、その他製品、繊維、パルプ・紙、建設が上位となり、鉄鋼、倉庫・運輸、証券・商品先物取引、その他金融が下位となりました。内需ディフェンシブ業種のアウトパフォーマンスが目立った一方、世界景気への懸念からハイベータ業種がアンダーパフォーマンスしました。

ファクター面では、先月に引き続きPERなどのバリュー系の指標が不調で、モメンタムや低ベータが好調でした。系の指標が不調で、モメンタムや低ベータが好調でした。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

<ファンド運用状況>

8月の運用成績はJPYクラスで+0.84%となりました。8月上旬は決算発表に向けて、資源関連銘柄のショートポジションや業績モメンタムの好調な建設、その他製品セクターのロングがプラスに寄与しました。8月下旬の急落時に運用成績は一時悪化しましたが、月末にかけての戻り局面で売られすぎた好業績銘柄の反発が大きかったことから、プラスの収益を確保することが出来ました。セクター別の損益は商社、建設、サービスセクターでプラスとなり、電機、化学、食品セクターでマイナスとなりました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

9月の株式市場は中国経済に対する懸念が根強いことから、当面は値動きの荒い展開が続くことが想定されます。下落局面では公的年金や日銀の買いも期待されますが、これまで株価指数を押し上げてきた医薬、食品セクターに利益確定売りが続いた場合には、さらなる下値模索も考えられます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウィズダム】

<ファンド運用状況>

8月の運用成績はJPY-Fクラスで+1.39%でした。株式市場が大幅な下落となる中、業績モメンタムが良好で財務健全性の高い銘柄が相対的にアウトパフォーマンスし、医薬、建設、運輸等の内需セクター内の銘柄選択効果によりプラスの収益となりました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションで日本電子（6951）、東映アニメーション（4816）、ショートポジションでは野村ホールディングス（8604）、横浜銀行（8332）がプラス収益に寄与しました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

今回の株式市場の急落は、中国経済の失速により米国を含めグローバルな景気後退を先読みした株式のバリュエーション調整と考えられます。株式市場が再び上昇相場に戻るには①米国利上げの先送り、②中国の財政出動が必要と思われる、米国の金融政策や中国の政策対応を睨みながらもみあいの相場展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

<ファンド運用状況>

8月の株式市場は、月末にかけて大きく下落する中でバリュー銘柄も売られ、安心感の持てる銘柄への売買集中が見られました。グローバル企業や製造業の構成比の違いもあり、全体としては小型株がアウトパフォーマンスしました。

ポートフォリオは、建設、食品、サービスなどのセクター（個別銘柄の判断から結果的に電機、機械）をオーバーウェイトとし、輸送用機器などのセクターをアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績拡大が持続するアウトソーシング（2427）や競争力のある特定の商品を持つデジタルアーツ（2326）など、個別銘柄要因によるロング銘柄がプラスに寄与しました。一方、電機など景気敏感銘柄や一時的な業績停滞銘柄のロングがマイナス寄与しました。

全体として、個別要因によるロングを中心に収益を積み上げ、ショートした割高銘柄のバリュエーション修正により、パフォーマンスの獲得に至りました。

<今後の市況見通し及び投資戦略>

売買の対象が一部銘柄に集中している傾向や低成長高バリュエーション銘柄の存在などに大きな変化はありませんが、当面の収益確保が可能な銘柄への信頼感が高く、ファンダメンタルによる選別が見られます。

小型株については、業種内、業種間のバリュエーション格差が目立ちますが、多くは業績格差を反映したものとなっています。

外部環境の不透明感が増し、株価変動の大きな状況が見込まれますが、銘柄ローテーションを意識することによるバリュエーション修正が期待できる局面にあると考えます。また、相場動向によらず、業績好調銘柄のバリュエーション維持は可能であると判断します。

業績モメンタムの変化に留意し、継続した業績拡大可能な割安銘柄の組入を行います。成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご注意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**